

エゾヤマザクラ

四季の観察ポイント

春

花と葉がほぼ同時に開く



葉ははじめ
赤みがかる

夏

実は熟すと
緑→赤→黒紫色と
変化する



バラ科
サクラ属
樹高 15~20m



秋

紅葉は
赤・黄・橙色
と多様



冬

冬芽には
花芽と葉芽
がある



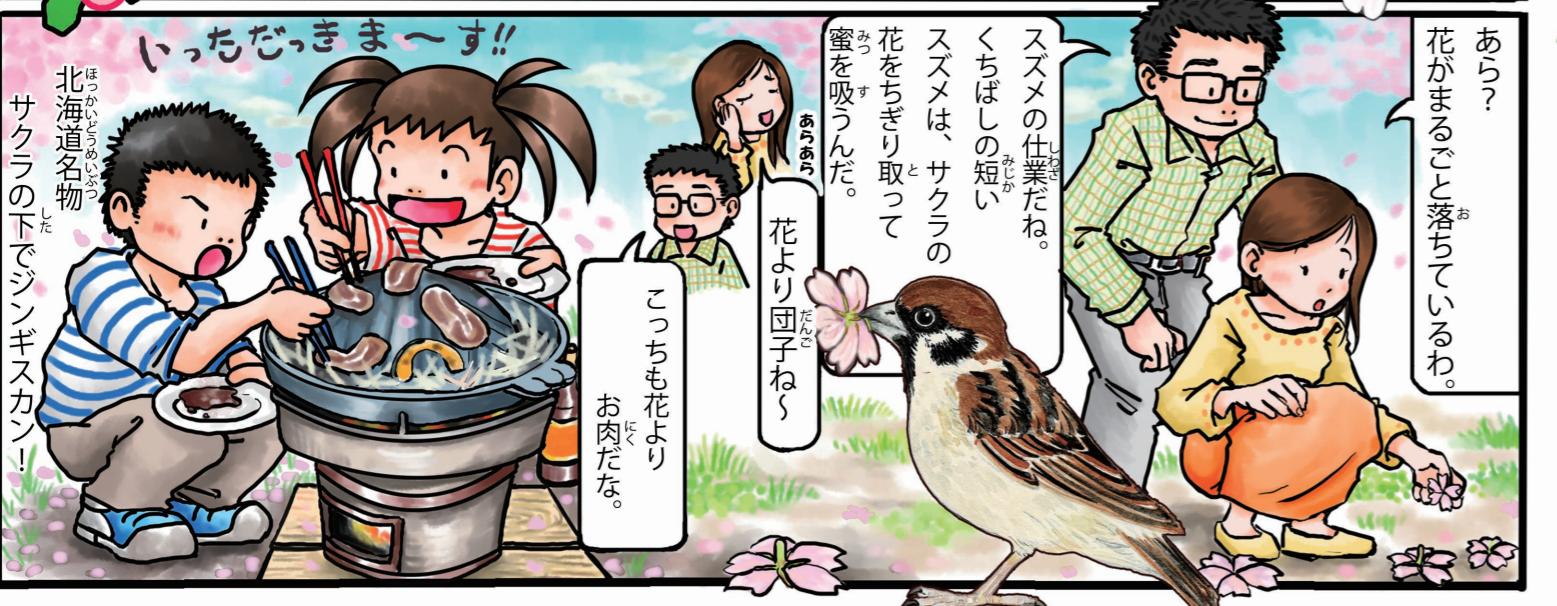
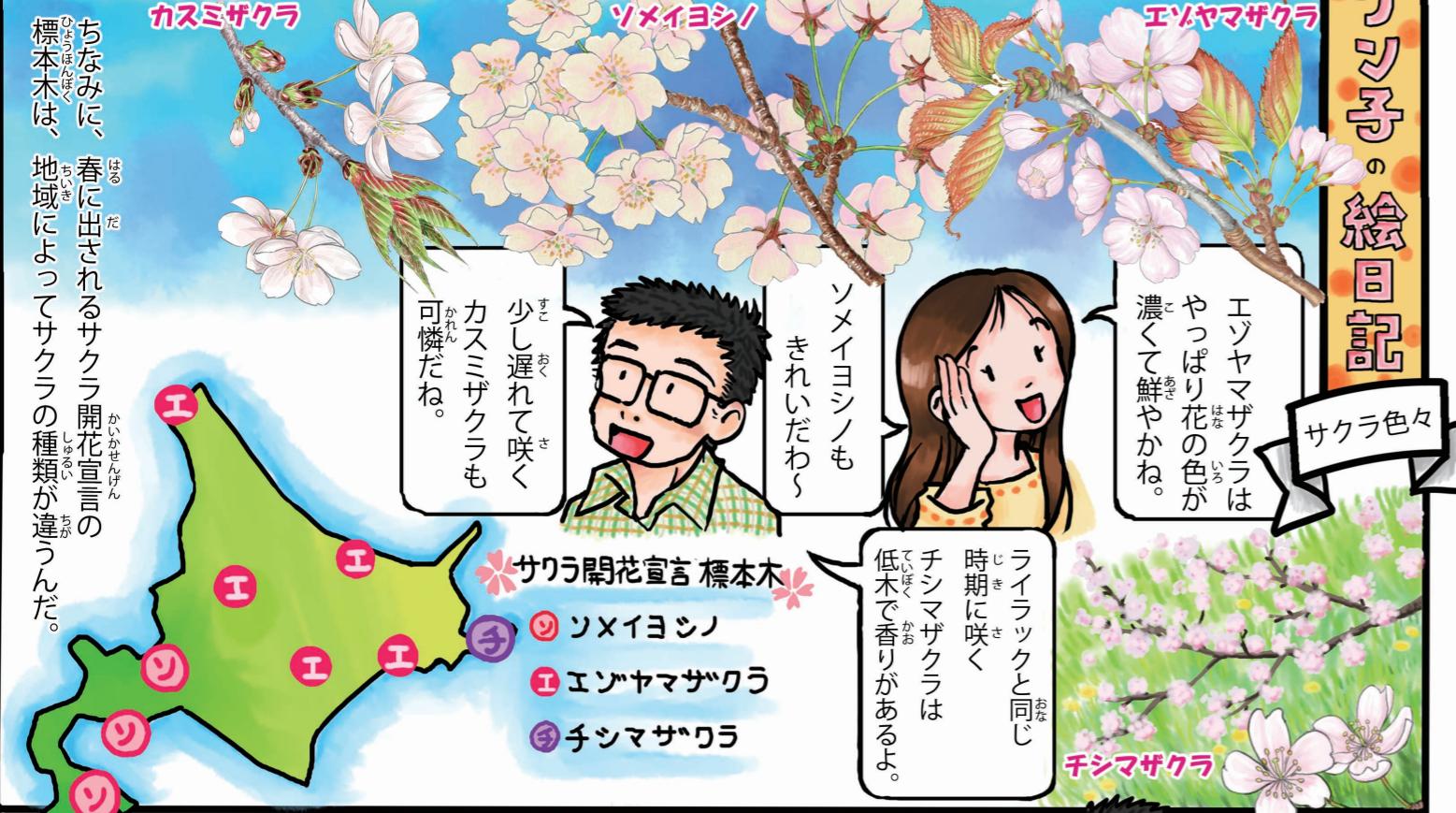
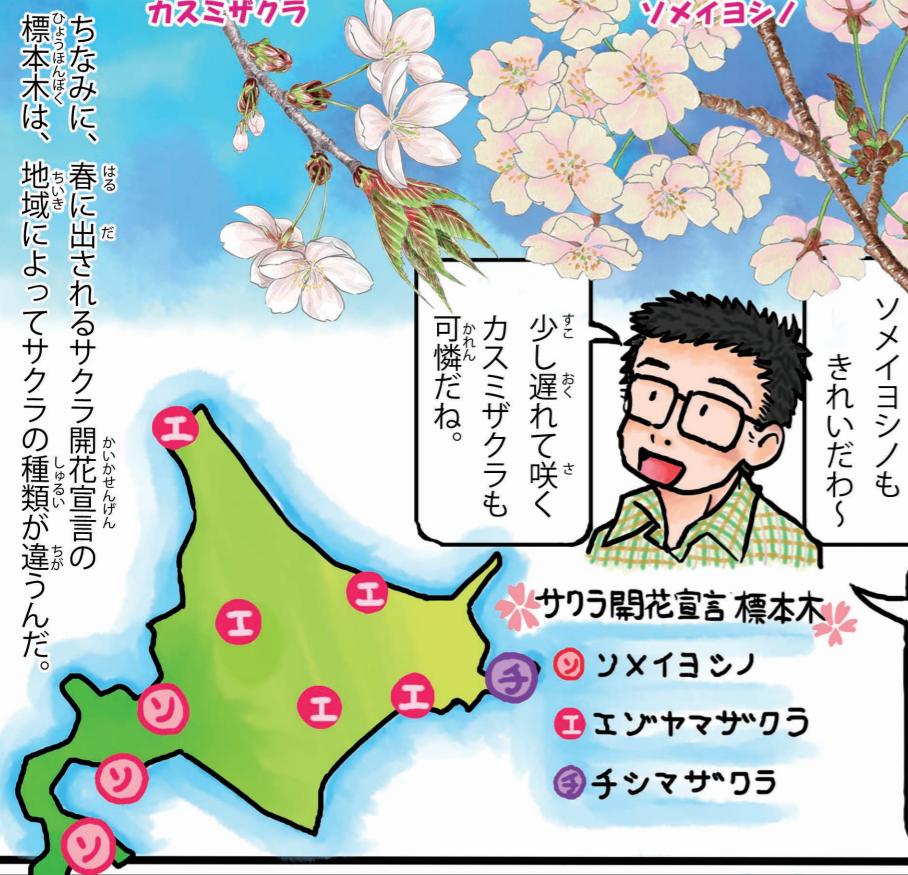
北海道の木のえほん10
寒さに強く、日本で十種類ある野生のサクラの中でも花の色が濃く、厳しい冬の寒さでより色味が増します。春に花が咲くと同時に赤みがかった葉も開くため、余計に枝先が赤く見えます。
別名オオヤマザクラやベニヤマザクラとも呼ばれます。

花の蜜を吸う
ヒヨドリや
ミツバチ

北海道の山では、他にチシマザクラ、ミヤマザクラ、カスミザクラ等が見られます。

リン子の絵日記

サクラ色々



エゾヤマザクラとくらしとのつながり

エゾヤマザクラやヤマザクラは、木目が緻密で堅いことから、昔は浮世絵の版木や和菓子の木型に使われていました。今でも製を作るチップとしても利用されています。

樹皮はなめらかで光沢があることから、樺細工と呼ばれる工芸品に利用され、また材はほのかにいい香りがすることから、燻製を作るチップとしても利用されています。



アイヌ民族とエゾヤマザクラ

エゾヤマザクラはアイヌ語で「カリンパニ（櫻皮の木）」と呼ばれ、樹皮を弓矢に卷いたり、小物に張り付けたりしました。

カリンパウンド
(櫻皮を巻いた弓)

